第1回 上向台小学校 学校運営協議会 議事録（要点記録）

1 開催日時

令和8年5月13日（水） 10:30～12:00

2 開催場所

上向台小学校 図書室

3 出席者

酒見校長、遠藤会長、鵜澤委員、吉田委員、門田委員、矢島委員、酒井委員、紺野委員
佐藤副校長、金子主幹教諭、安達主幹養護教諭、花俣主任教諭、森川主任教諭、秋本主任教諭

欠席者
村田委員、石川委員

※委員10名中8名出席により、本会議は成立

4 次第及び内容

（1）開会・資料確認

副校長より、委員の半数以上の出席により会議の成立を報告。配布資料（学校経営方針、行事予定表、通知表の見直し、いじめ防止基本方針、体力テスト結果等）の確認を行った。

（2）委員紹介（**10:35**）

- 田無幼稚園理事長
- サルビアカフェ代表
- 地域住民代表
- 主任児童委員
- おやじの会代表
- PTA会長
- 地域コーディネーター・育成会ひろがり会長
- 校長
- 副校長
- 教務主幹
- 生活指導主幹
- 研究主任
- 経営専任主任
- 学校行事主任

（3）会長・副会長の選任（**10:45**）

以下の通り選任された。

- 会長：遠藤様
- 副会長：鵜澤様
- 議事録作成について：昨年度同様、発言者ごとの「要点記録」とすることを承認。

（4）令和8年度 学校経営方針について（**10:50**）

校長より説明。

- 教育目標：「人にやさしさ、自分につよさ、生き抜くかしこさ」
- キーワード：「一人一人の子供を主語にする学校」
- 重点取組：予測困難な時代を見据え、生成AIに代替されない「正解のない社会を生き抜いていくための力」を育成。教員は伴走者として、子供の良さや可能性を見出す役割を果たす。
- 働き方改革：教職員が子供と向き合う時間を確保するため、業務の適正化を推進。
- 小学校教科担任制の継続運用：学級担任の担当する教科数が大幅に減り、授業準備等の負担の軽減。専門的な指導の充実。
- 副担任制の低・中学年の継続運用：担任教員だけでなく、他の教員にも相談できる環境整備、児童が相談できる大人を増やす試み。登校時の確認、朝の見守り、休み時間、給食、遠足での関わり等。
- 通知表見直しと夏季個人面談への移行：前期のあゆみの所見欄を廃止し、夏休みの個人面談で具体的なフィードバックを実施予定。年度末に所見を文章で記入。
-

（5）教務・研究推進部より（**11:10**）

- 年間行事・教育課程：１年生120名を迎え、全校児童741名でスタート。１年生から5年生は遠足を実施し、人間関係形成力を育成。5月の投げ方教室（吉田委員協力）の実施。5月23日の土曜公開授業では、セーフティ教室を実施し、国際大学グローバルコミュニティセンター客室研究員の小木曽氏を招き、「正しく怖がるインターネット」というテーマでの講演を実施。夏季休業中の個人面談実施について説明。
- 年間行事スケジュール：5／23　セーフティ教室・引き取り訓練、7／4　道徳授業地区公開講座、9／26　地域防災訓練、10／24　体育発表会、11／20　授業公開、12／11　研究発表会、2／11～12　展覧会、3／25　卒業式
- 朝学習での「朝読書」：昨年度の全国学力・学習状況調査結果では、「家庭の蔵書数が少ない」、「読書が好きではない」という傾向が見られたことから、毎週金曜日は「朝読書」の時間を実施。保護者ボランティアによる読み聞かせも実施予定。保護者へ「朝の読み聞かせ」を協力依頼。
- 朝学習での「タブレット学習」：朝学習の曜日を固定して、タブレット学習の時間で情報活用能力を育成。
- 校内**DX**の推進：教職員ポータルサイトから、年間行事予定や日々の予定、週ごとの実施計画等を一元管理。情報アクセス性を高め、児童への還元と働き方改革に貢献。
- 自立した学習者の育成：那須町教育委員会や都立高校、大学から視察依頼あり。「学びのプロセス」の可視化や、デジタル学習基盤を用いた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実についての実践報告。朝学習に、読書に加えてタブレット学習の時間を導入し、情報活用能力を育成。12月に研究発表会を予定。

（6）生活指導部について（**11:30**）

- いじめ防止基本方針：いじめの定義と認知件数の共有。些細な兆候も見逃さない組織的対応と、地域での見守り・声掛けの重要性を確認。
- 校内教育支援センター（別室指導）：不登校傾向の児童への居場所づくり。オンライン学習の活用や、支援員による環境整備により、学校内の「安全基地」として機能。

（7）経営支援・特別活動部より（**11:45**）

- 組織再編：従来の4部制から3部制へ再編し、スピード感のある運営へ。
- 地域連携・予算：令和8年度配当予算に基づき、質の維持向上を検討。地域コーディネーターとの定期協議や、特色ある学校づくりの予算による備品（投げ方教室に関連してグローブ購入、米作り等で使う農具購入）の活用。
- 異学年交流：「フレンド班」で遊びをするだけでなく、体力テストや清掃活動を通じた交流の活性化。高学年が低学年を支援し、児童主体での活動を推進。

（8）学校行事委員会より（**11:50**）

- 「運動部」から「学校行事委員会」へ改称し、体育・文化的行事を統合。
- 投げ方教室の成果を踏まえ、対象学年の拡大を検討。
- 水泳指導は暑さ対策のため、6月上旬から実施
- 水球オリンピアンの指導について5年生が実施予定

（9）委員からの意見「上向台小の良いところ」（**11:55**）

- 登下校時、子供たちが元気によく挨拶をしてくれる。
- 先生方がAIを活用する時代において、子どもたちが「自立した学習者」として能力を発揮できるような教育を熱心に考えている。
- 運動が健康な体をつくり、将来の資本になることを継続的に伝えていきたい。自身も子どもたちと一緒に活動することで、健康を維持できており、児童の規律正しい様子からも、学校の将来性を確信している。
- 学校経営方針に則って、先生方が熱心に資料を作成している様子から、先生方の意欲の高さが分かる。
- 外部でも「上向台小学校の先生方は雰囲気がいい」と頻繁に言われる。子どもは最も身近な大人である教員から大きな影響を受けるため、このような良い雰囲気の中で育つ子どもたちも、良い大人になるだろうという期待がもてる。
- 教員が多忙な中でも、児童一人一人と向き合う時間を確保している点が素晴らしいと評価。
- 働き方改革や業務効率化ツールが導入される中でも、児童と向き合う時間を効率化の対象とせず、先生方が自分の担任ではない児童にすれ違いざまに声をかけるなど細やかな対応が見られる。先生の姿を見ている上級生が下級生の面倒をみるなど、良い影響が子どもたちに伝わっている。
- 子どもが学校生活を楽しんでいる様子から、学校がよい環境であることがうかがえる。
- 社会人の視点として、指示されたことを正確に行うだけでなく、自ら考えて行動できる人材の重要性が指摘され、学校がそうしたリーダーシップや主体性を育む教育を実践している点を高く評価している。

- タブレット端末の先行導入や専科教員の配置により、専門知識を深く学べる環境が整備されており、将来、社会で生きる力につながると期待している。
- 外部から「上小はすごい」と頻繁に評価されるとの報告。高校でも授業方法や行事内容を生徒が主体的に決める方針が採用されており、これが現代の教育全体の流れであると実感している。
- 上小で実践されている子ども主体の教育は、今後ますます重要になるため、継続していくべきであると考える。

（10）事務連絡・閉会（**12:00**）

- 次回日程：6月3日（水）10:30～（校内参観を予定）
- 会長挨拶：先生方の持ち味が発揮され、子供に寄り添う姿勢を評価。今後も本日のような雰囲気での協議を継続したい旨を述べ、閉会した。